

食品安全研究会

【食品微生物研究部会】

1, 2 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2018 年の予定として飲料原料微生物検査法の展開と告知、学術発表、芽法形成条件のデータベース化等を検討している。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none">・ カビ分析のスタンダードプロトコル作成に関して、2 月 20 日に第 4 回会議を実施。次回は 2018 年 6 月に島津製作所様にて、NITE が開発した糸状菌（Aspergillus）の分析法やノウハウについて、実技を含めた勉強会を開催予定。 <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 海外ガイドラインの読み合わせを中心とした勉強会の開催を計画中。 <p>(4) 検査法標準化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今期よりキックオフ。参画メンバーで参集し、今後の方向性について議論予定。 <p>(5) NGS プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3/1 締め切りで最終原稿調整中。確定後、速やかに投稿される。 <p>2. 2018 年度第 1 回部会全体会議を実施（2/28）</p> <p>ニチレイ東銀座ビルで開催し、34 名参加。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2017 年 12/15 実施の公開シンポジウム総括・ 各分科会活動の進捗報告・ ILSI 本部総会参加報告・ 勉強会：「DNA/RNA シークエンス用ポータブルデバイス MinION の技術と今後の展開について」オックスフォード・ナノポアテクノロジーズ社の宮本真理様にご講演いただいた。
3, 4 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会：進捗なし。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <p>6/20 島津製作所本社にて微生物同定講習会を開催予定。</p> <p>講師：NITE/NBRC、島津製作所</p> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>6/8 ILSI Japan 会議室にて勉強会および打ち合わせの予定。</p> <p>(4) 検査法標準化プロジェクト：進捗なし。</p> <p>(5) NGS プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none">・ 最終原稿が完成した。プロジェクトメンバーで参集し、東京海洋大学にて木村凡先生より報告会を実施予定。（5/31） <p>2. 2018 年度 第 2 回部会全体会議 予定（5/22）</p> <p>不二製油（株）阪南事業所で開催予定。</p> <p>勉強会：神戸大 石川周先生、元東洋食品研究所 青山好男先生に講師をお願いしている。</p>

5, 6 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会：進捗なし。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 6/20 実技を含む講習会を島津/京都で開催予定だったが、大阪北部地震を受け延期。 7/13 にキューピー（株）にて座学講習会を開催予定。</p> <p>(3) チルド勉強会 6/8 ILSI 会議室にて、今後の勉強会内容と活動に関する打ち合わせを実施した。</p> <p>(4) 検査法標準化プロジェクト：進捗なし。</p> <p>(5) NGS プロジェクト プロジェクトメンバーで参集し、東京海洋大学にて木村凡先生より最終原稿の内容についての報告会を実施した（5/31）。最終原稿について英文誌に投稿されると ILSI Europe より連絡があった。 公開シンポジウムの開催に向け、準備を進めていく予定。</p> <p>2. 2018 年度 第 2 回部会全体会議（5/22） 不二製油（株）阪南事業所で開催した。 30 名＋不二製油社員 36 名の計 66 名参加。 勉強会：「ロイコノストックとは？」神戸大 石川周先生、 「高温性嫌気性芽胞菌への脂肪酸エステル作用」元東洋食品研究所 青山好男先生の 2 講師から講演いただいた。</p>
7, 8 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会：進捗なし。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 7/13 にキューピー（株）にて座学講習会を開催した。参加者は 27 名＋講師陣 8 名の計 35 名であった。情報交換会は 26 名の参加。講師として NITE の川崎先生、千葉大の伴先生、島津製作所の寺本先生にセレウスや糸状菌の識別同定、MALDI 同定技術について御講演いただいた。</p> <p>(3) チルド勉強会 耐熱性試験等について検査法標準化プロジェクトとの協働を考えている。勉強会及び活動に関する打ち合わせを 10 月に開催予定。</p> <p>(4) 検査法標準化プロジェクト 進捗なし。チルド勉強会との協働予定。</p> <p>(5) NGS プロジェクト 進捗なし。公開シンポジウムの開催に向け、準備中。</p> <p>2. 2018 年度 第 3 回部会全体会議（8/27） キューピー（株）仙川キューポートで開催した。 部会・勉強会は 51 名の参加、意見交換会は 32 名の参加であった。 勉強会： 「MALDI バイオタイパーの認証取得と IR バイオタイパーについて」ブルカー社 宮脇様、 「生ビール製造における微生物検査法の開発」アサヒグループホールディングス(株) グ</p>

	<p>ループ食の安全研究所 鈴木所長、 「ナノポアシークエンサーを用いた迅速な細菌種の組成解析」 東海大学 医学部 今西先生、 上記の3講師からご講演いただいた。</p>
9, 10 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗無し。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 NITE との協働研究体制について契約延長を検討中。</p> <p>(3) チルド勉強会 10/12 ILSI 会議室にて、勉強会（セレウス菌制御について及び今後の活動に関する打ち合わせを実施した。</p> <p>(4) 検査法標準化プロジェクト 検査法標準化プロジェクトの一環として、チルド勉強会活動の中で「セレウス菌耐熱性試験法の評価」に取り組む。</p> <p>(5) NGS プロジェクト 3/6 公開シンポジウムの開催に向け、演者と演題が概ね確定した。当日のプログラム案等について準備中。</p> <p>2. 次回研究部会開催について 11/20 (株)明治 明治イノベーションセンターにて第4回部会を開催予定。勉強会講師として元・日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木先生にボツリヌス菌について講演いただく予定。</p>
11, 12 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 12月上旬に関係者で打ち合わせを実施。統一検査法の普及に向けて2019年3月末を目途に活動を継続し、その結果も踏まえてさらに継続するか判断する予定。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 11/1 に NITE と打ち合わせを実施し、現在結んでいる連携体制をさらに2年間（2021年3月末迄）継続する方向で合意した。 また2/1、8実施のNITE主催MALDI実技研修へのILSI参加枠設定や、2/15の情報交換会開催を調整した。</p> <p>(3) チルド勉強会 活動の一つとして耐熱性試験法検証案を取り纏め、参加企業を募った。また、ボツリヌス菌制御に関する活動に興味を持つ企業に呼びかけて日本缶詰びん詰レトルト食品協会大久保先生を訪問し、ボツリヌス菌の制御手段や接種試験についてお話をうかがった（12/26）。</p> <p>(4) NGS プロジェクト Food Microbiology 誌に投稿していた総説が無事受理された。 3/6 公開シンポジウムの開催に向け、準備中。ILSI Japan ホームページ上でプログラムを公開し、参加募集を開始した。</p> <p>2. 2018年度 第4回部会全体会議（11/20） (株)明治 明治イノベーションセンターにて部会を開催した。部会および勉強会に30名、意見交換会に25名の参加であった。 明治様のご協力で研究所内の見学会が実施された。</p>

<p>勉強会講師として元・日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木先生にボツリヌス菌について講演いただいた。豊富な事例を交え歴史的な経緯を辿りながら、下記の内容についてご講演いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none">・国内のボツリヌス食中毒の発生状況・国内の容器包装詰殺菌食品の法的規制の現状・ボツリヌス菌接種試験の概要・加工食品におけるボツリヌス菌接種試験
--

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品リスク評価新技術勉強会 (WG2) : ① ILSI Europe との動物実験代替推進に向けた協働について JaCVAM 運営委員会にて協力を要請、国衛研として協力いただけることとなった。② リードアクロスについて独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) と 5/18 に意見交換会を実施することとなった。 ・ 食品リスク評価課題解決 (WG3) : 高齢者を考慮した食品の安全性評価に関わる課題について議論、整理継続中。 <p>2. 次回部会開催予定</p> <p>日時: 2018年4月27日 13:30-15:00</p> <p>場所: 協和発酵バイオ東京支店バイオ専用第3会議室</p> <p>3. 勉強会開催予定</p> <p>演題: 化学物質の有害性評価のための in silico 評価技術の現状と活用推進へ向けた課題</p> <p>講師: 国立医薬品食品衛生研究所、山田隆志先生</p> <p>日時: 2018年4月27日 15:00-17:00</p> <p>場所: 協和発酵バイオ東京支店バイオ専用第3会議室</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品リスク評価新技術勉強会 (WG2) : <ul style="list-style-type: none"> ① ILSI Europe との動物実験代替推進に向けた協働: EUROTOX 直後の 9/6, 7, Brussel にて開催される WORKSHOP に国衛研から 3 名、ILSI Japan から 3 名をエントリーした。これに先立ち、食品分野のガイドラインが求める動物実験についてのまとめを ILSI Europe に提出予定。 ② 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) とのカテゴリーアプローチに関する意見交換会 (5/18) にむけ評価化合物を事前提出した。 ・ 食品リスク評価課題解決 (WG3) : <ul style="list-style-type: none"> (ア) 高齢者が摂取する食品の安全性評価: 本テーマの進め方について、中江大理事に相談、その結果を受け、高齢者の定義明確化を目的とする専門家を囲んだ勉強会、食安委評価書からの情報収集や医薬品の事例抽出の可能性を検討することとなった。勉強会には老年医学専門家の桜美林大学鈴木隆雄先生を招聘予定。 (イ) GEMS FOOD データベース: 国立健康栄養研国際栄養情報センター長 西信雄先生を訪問しデータベースの活用についてヒアリング予定。 <p>2. 2018 年度第 1 回部会会議を開催した (4/27)</p> <p>協和発酵バイオ東京支店にて開催。20 名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WG2、WG3 進捗報告 ・ 新メンバー紹介 <p>3. 勉強会開催 (4/27)</p>

	<p>協和発酵バイオ東京支店にて開催。22名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演題：化学物質の有害性評価のための <i>in silico</i> 評価技術の現状と活用推進へ向けた課題 ・講師：国立医薬品食品衛生研究所、山田隆志先生 <p>内容：TTC、(Q)SAR、カテゴリーアプローチの基礎から最近の話題まで</p>
5, 6 月	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <p>1) 食品リスク評価新技術勉強会 (WG2) :</p> <p>① ILSI Europe との動物実験代替推進に向けた協働：EUROTOX 直後の 9/6-7、Brusselにて開催される WORKSHOP に向け、国衛研の協力を得ながら日本における食品分野のガイドラインが求める動物実験についてのまとめを ILSI Europe に提出した。</p> <p>② 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) とのカテゴリーアプローチに関する意見交換会を実施した (5/18)。事前提出した化合物事例について予測結果を議論した。17名参加。</p> <p>参考) 講習会の様子：https://www.nite.go.jp/chem/qsar/ILSI_20180518_qsar.html</p> <p>2) 食品リスク評価課題解決 (WG3) :</p> <p>① 勉強会：桜美林大老年学総合研究所所長の鈴木隆雄先生をお招きし、「高齢者の健康と寿命の変化：科学的根拠を中心として」と題して勉強会を開催した。信頼性の高い臨床研究でのエビデンスに基づく高齢者の特徴について理解を深めた。10名参加。</p> <p>② 勉強会：東大医院 加齢医学／東大附属病院老年病科の秋下雅弘先生をお招きして勉強会を開催する (7/9)。</p> <p>2. 勉強会</p> <p>本機構の中江理事をお招きし、8/6 に下記勉強会を開催予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演題 (仮)：安全性試験の意義、動物実験はなぜ必要なのか：医薬品開発の場合
7, 8 月	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <p>1) 食品リスク評価新技術 (WG2) :</p> <p>① 食品安全領域における動物実験代替の推進を強化するため、『ILSI-Japan 食品安全性評価領域の動物実験代替法推進プロジェクト (略称：ILSI-Japan AAT プロジェクト)』を発足、ILSI Japan 内で参加企業を募集した。8/27 時点で 12 社の参加があった。今後 WG2 の活動は当プロジェクトに承継される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定：キックオフ会議 10/2、13:30～ @味の素 (株) 川崎事業所 ・予定：合宿 10/26~27@京都 <p>② ILSI Europe との動物実験代替推進に向けた協働：ILSI Europe 主催の食品領域の動物実験代替法に関する WORKSHOP の準備会議を参加者中心に 8/10、国衛研にて開催した。</p> <p>2) 食品リスク評価課題解決 (WG3) : 老年医学専門家との WG3 内勉強会を ILSI Japan にて開催した。</p> <p>① 演題：高齢者の健康と寿命の変化-データと科学的根拠を中心に 講師：桜美林大学老年学総合研究所 鈴木隆雄所長 (5/29、9名参加)</p> <p>② 演題：高齢者医療のポイント：薬物療法の注意点など 講師：東京大学医学部附属病院 副院長 老年病科科長、東京大学大学院医学系研究</p>

	<p>科 加齢医学教授 秋下雅弘先生 (7/9、11名参加)</p> <p>2. 2018年第3回部会会議 (8/6)</p> <p>味の素(株)川崎事業所にて開催。17名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG2、WG3進捗報告 ・味の素(株)カスタマーイノベーションセンター見学 <p>3. 部会勉強会を開催した (8/6)</p> <p>味の素(株)川崎事業所にて開催。25名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演題：安全性試験の意義、動物実験はなぜ必要なのか：医薬品開発の場合 ・講師：当機構理事、東京農業大学教授 中江大先生
9, 10月	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <p>1) 食品リスク評価課題解決 (WG3) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が摂取する食品の安全性評価における課題抽出に向けた検討を進めた。食安委評価書からの情報収集及び医薬品の評価における事例抽出の取り組みを実施中であり、11月以降継続予定。 <p>2. プロジェクト活動</p> <p>1) ILSI Japan AAT-Prj (食品安全性評価領域の動物実験代替法推進プロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/1時点で14社参加。 ・ILSI Europe主催のワークショップ「動物実験の代替戦略を開発するための包括的アプローチ」にアカデミア委員3名、企業メンバー3名参加。 ・プロジェクトキックオフ会議：10/2、13:30～ @味の素(株)川崎事業所にて参加企業、アドバイザー、アカデミア委員によるキックオフ会議開催。あわせて上記 ILSI Europe主催のワークショップの参加報告会実施。26名参加。 ・京都合宿：10/26～27@京都にて今後の方向性を集中的に議論。5月実施インシリコ(HESS)講習会実施の各社レビュー実施、NITEヘフィードバック予定。企業メンバー18名参加。 ・勉強会：上記合宿にあわせ京大工学 鳥澤先生による講演会開催。演題：Organ-on-a-chipを用いた安全性・体内動態評価の動向 ・予定：2019年日本毒性学会のシンポジウムにてスピーカー派遣を検討中。 ・予定：2020年にILSI Europeと協働で代替法に関する国際ワークショップをアジアで開催する方向で調整開始。
11, 12月	<p>1. 部会活動</p> <p>1) 12/13、ライオン(株)平井研究所にて部会を開催した。WG3及びAAT-Project(食品安全性評価領域の動物実験代替法推進プロジェクト)より活動報告を行った。29名参加。</p> <p>2) 講演会：部会同日に講師をお招きして下記のAI-SHIPSに関する講演会を開催した。34名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI-SHIPS開発センター事務局長 東京大学 庄野文章先生「プロジェクトの概要 その推進と今後の展開について」 ・昭和薬科大学 山崎浩史先生「一般化学物質の経口吸収過程を含む生理学的薬物動態モデル構築の取り組み」 <p>3) ワーキンググループ活動</p> <p>食品リスク評価課題解決ワーキンググループ (WG3) : 高齢者が摂取する食品の安全性</p>

評価の考え方、方法論の整備、発信をテーマに活動を行っている。高齢者の食品安全リスク評価におけるポイント抽出のため、食品安全委員会の評価書ならびに「高齢者の医薬品適正使用の指針」などから加齢に伴う安全性上の注意点を抽出した。今後、さらに食品－医薬品相互作用情報の調査を行う。

2. プロジェクト活動

ILSI Japan AAT-Prj

- ILSI Europe とのコラボによる 2020 年国際ワークショップの組織委員会メンバーとして ILSI Japan から小島肇先生（国衛研）、真鍋（味の素株）、中村氏及び徳田氏（事務局）が参加することとなった。
- 取り組み方針（案）に対するヒヤリング：10/26-27 にかけて企業メンバーで集中的に議論した取り組み方針（案）についてアカデミア委員よりご意見をいただいた。
- 12/13 にライオン（株）平井研究所にて上記ヒヤリング結果を参加企業にフィードバックし、今後の取り組み方針を議論、確定した。実効性を高めるため、「吸収性予測」と「食品データベースの構築」の二つのワーキンググループを発足した。
- NITE（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）へのフィードバック：HESS（Hazard Evaluation Support System）を各社検証し、使用した感想をまとめて NITE に報告した。

食品安全研究会

【香料研究部会】

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

バイオテクノロジー研究会

◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 2018 年度 第 1 回目会議を 2 月 21 日に開催</p> <p>(1) 新幹事会役割の確認、ILSI 行動規範等の確認： 年度初のため各種役割、ILSI 行動規範等の再確認を行った。</p> <p>(2) ERA プロジェクト調査報告 第 37 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(3) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。</p> <p>(4) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会についての準備の現況報告が行われた。開催は 4 月 25 日に決定した。 ・ 2017 年 12 月 15 日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」開催結果報告がなされ、今後の「イルシー」誌等への投稿について議論された（今後継続検討）。 ・ ERA 報告書に長年ご尽力頂いている林先生に、これまでの ERA の歴史を整理することを目的に「日本における GM 作物の ERA の歴史」のご執筆を依頼することが提案され、可決された（今後継続検討）。</p> <p>(5) その他情報共有化 「農林水産業イノベーションシンポジウム」 (3 月 20 日農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課技術安全室主催)</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 2018 年度 第 2 回目会議を 4 月 11 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 38 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。</p> <p>(3) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会（4 月 25 日開催） フクラシア丸の内オアゾで開催。産官学一般計 59 名参加。 2016 年 ILSI ERA 勉強会の振り返り、日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価の考え方（佐藤忍先生 筑波大）、隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティの考え方と現状（大澤良先生 筑波大）、2016 年 ILSI ERA 勉強会の振り返り（雑草の特徴について）（黒川俊二先生 農研機構） ・ 2017 年 12 月 15 日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」 開催結果報告は発表者である齋藤先生より「イルシー」誌へ投稿いただくこととなった。 ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」</p>

	<p>これまでの ERA の歴史を整理することを目的に執筆いただくことが林先生ご本人からも承諾された。12月の第41号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備開始。</p>
5, 6 月	<p>1. 2018 年度 第 3 回目会議を 6 月 13 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 39 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗報告なし。 <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会（2017 年 12 月 15 日開催） 開催結果報告は発表者である齋藤先生より 7 月発刊の「イルシー（ILSI Japan 機関紙）」誌へ投稿準備中。 ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会（2018 年 4 月 25 日開催） 10 月発刊の「イルシー」誌に投稿準備中。 ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」12 月の第 41 号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備中。 ・ 2018 年 11 月 ERA ワークショップ準備状況共有化 開催候補日は 2018 年 11 月 7 日-8 日 登壇者、開催場所等を選定中。 ・ ゲノム編集技術の最新動向についての勉強会 講師は 2 名程度を招聘しバイオ研究会の内部勉強会という位置づけで開催する計画を策定（2018 年夏～初秋）。 ・ 2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）への講師派遣リスク評価に造詣の深い有識者を 5～6 名派遣する計画を策定（2019 年 4 月 8 日-11 日）。
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年度 第 4 回目研究会は「ゲノム編集技術の最新動向」についての勉強会と 9 月 3 日に同時開催予定。
9, 10 月	<p>1. 2018 年度 第 4 回目会議を 9 月 3 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 40 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗報告なし。 <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」12 月の第 41 号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備中。 ・ 2018 年 11 月 ERA ワークショップ準備状況共有化 開催日は 2018 年 11 月 7 日～8 日 <p>(4) ゲノム編集技術の最新動向についての勉強会 バイオ研究会の内部勉強会の位置づけで開催（参加者 26 名）。 講師：農研機構生物機能利用研究部門 遺伝子利用基盤研究領域 田部井豊先生</p> <p>2. 2018 年度 第 5 回目会議を 10 月 4 日に開催</p>

	<p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 41 号の勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来春に「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ開催計画について議論した。 <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」 ご執筆者：林先生による報告会を開催することが決定された（来春）。 ・ 2018 年 11 月 ERA ワorkshop 準備最終状況共有化 ・ 2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）への講師派遣 リスク評価に造詣の深い有識者を 5～6 名派遣し、報告していただく計画を策定（2019 年 4 月 1 日～4 日）。 ・ 「遺伝子組換え作物の生物多様性影響の競合における優位性に関する考察」が育種学研究に早期掲載された。 <p>(4) ISOTC34/SC16 総会ワークショップ開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2010 年の The 2nd plenary meeting of ISOTC34/SC16 Horizontal methods for molecular biomarkers analysis 国際会議ポストワークショップ「GMO 検知技術の国際動向」の開催経緯を、(株)ファスマック布藤氏が説明。 ・ 2019 年に日本開催が予定されている ISO TC34/SC16 総会にあわせて当研究会がワークショップを開催することを検討。 <p>(5) FY2019 活動計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記 (2) および (4) 記載のワークショップを含め、8 件の活動計画について議論、策定を行った。(① ISOTC34/SC16 総会ワークショップ ② ERA ワorkshop ③ ゲノム編集ワークショップ ④ 高度に精製された添加物・食品ワークショップ ⑤ ERA 報告事業 ⑥ 内部勉強会 ⑦ 生物多様性影響評価/に関する論文投稿 ⑧ ISBR2019 演者派遣)
11, 12 月	<p>1. 2018 年 11 月 7 日（水）「遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関するワークショップ」をベルサール八重洲で開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産官学、計 73 名が参加。 ・ Dr. Andrew Roberts (ILSI RF, US)、Dr. Adinda De Schrijver (Scientific expert for The Belgian competent authority)、Dr. Facundo Vesprini (Risk assessor Biotech Directorate Argentine MOAg)、Dr. Shuichi Nakai (Bayer crop science) が、大澤良先生（筑波大）、黒川俊二先生（NARO）および後藤秀俊氏（ILSI Japan）より発表。それぞれの知見の紹介、ならびに当研究会が論文投稿したデータトランスポートビリティに関する発表を行った。 ・ “隔離ほ場試験が適切な方法かつ十分な規模で行われている場合、試験結果は導入遺伝子の知見にかかわらずデータトランスポートビリティがある”という点について一定の合意が得られた。 <p>2. 2018 年度 第 6 回目会議を 12 月 7 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 42 号の勉強会：</p>

<ul style="list-style-type: none">・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) GM 微生物食品について：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 来春に「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」WS 開催 準備状況について共有化。・ 「高度精製飼料添加物の届出制度」新制度について情報提供 <p>(3) GM 作物について：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2018 年 11 月 ERA ワークショップ（1 に前述）共有化・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」 年内に執筆作業はほぼ完了。林先生による報告会は来春 GW 明け頃に予定。・ 2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）準備状況報告。 <p>(4) 2018 年 11 月 12 日開催、部会長会議について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 部会長より参加報告がなされた。 <p>(5) そのほか TC34/SC16 国内対策委員会について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 橋本名誉部会長が TC34/SC16 国内対策委員会 GMO 分科会の委員となることが決定された。
--

栄養健康研究会

【栄養研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 第 9 回ライフサイエンスシンポジウム開催に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内状の案を作成（2018/2/15）。 ・ILSI Japan 総会において、事務局長より、下記のシンポジウム開催を案内（2018/2/19）。 <p>『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』 「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 —基礎研究から応用研究まで—」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日： 2018 年 7 月 26 日（木）（終日） ・場所：東京大学弥生講堂・一条ホール <p>2. シンポジウムのプロモーションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本シンポジウムの聴講が、日本栄養士会の「生涯教育制度」、日本臨床栄養協会の「NR・サプリメントアドバイザー」の研修単位に認定されるように、両会に対して、単位認定のための申請手続きを開始（2018/2/15）（認定されると、本シンポジウムの開催が両会を経由して、広く案内できるため）。 ・ILSI Japan ホームページでの、本シンポジウムの申し込みサイトの作成を開始。
<p>3, 4 月</p>	<p>2018 年度 の第 1 回 部会を開催した（3 月 16 日）。</p> <p>1. 下記テーマの『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』開催に向け、進捗状況について情報を共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 —基礎研究から応用研究まで—」。 ・開催日： 2018 年 7 月 26 日（木）（終日） ・場所：東京大学弥生講堂一条ホール <p>2. ILSI Japan のホームページに『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』の開催案内を掲載。（4 月）</p> <p>http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/LEC/LifeScience/LifeScience2018.php</p> <p>3. 第 8 回「栄養とエイジング」国際会議（2019 年 10 月）に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養研究部会からは、篠田（森永乳業株式会社）と三井（花王株式会社）の 2 名がプログラム委員会に参加することになった。
<p>5, 6 月</p>	<p>1. 日本栄養士会雑誌への ILSI Japan シンポジウム開催案内掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 9 回 ILSI Japan ライフサイエンスシンポジウム『健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合（2018 年 7 月 26 日、東京大学弥生講堂一条ホールにて開催）』の聴講が日本栄養士会の生涯教育制度の研修単位に認定されたことから、同会機関誌（7 月号）へのシンポジウム開催案内の掲載手続きを実施した（5 月）。 <p>2. 2018 年度 第 2 回 部会を開催（6 月 1 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンスシンポジウム開催に向け、進捗状況について情報を共有するとともに、当日の役割分担について打合せした。 ・シンポジウム開催前に第 3 回目の部会を開催し、最終調整することにした。 ・第 8 回『栄養とエイジング』国際会議（2019 年 10 月）のプログラム委員会の状況について、情報共有した。
<p>7, 8 月</p>	<p>1. ILSI Japan シンポジウム開催（7 月）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 9 回 ILSI Japan ライフサイエンスシンポジウム『健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合—基礎研究から応用研究まで—』を 2018 年 7 月 26 日 (9:00～17:45) に東京大学弥生講堂一条ホールにて開催した。 ・ 講師の先生方、ILSI Japan のスタッフを含め、200 名の方にご参集いただき、成功裏に終えることができた。 <p>2. 「イルシー」誌への寄稿 (8 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記ライフサイエンスシンポジウムのフラッシュレポートを作成し、ILSI Japan 事務局に提出した。
9, 10 月	<p>1. 2018 年度 第 4 回 部会を開催 (10 月 11 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月 26 日に開催した第 9 回「ライフサイエンスシンポジウム」について、事務局と情報共有した。 ・ 第 8 回「栄養とエイジング」国際会議 (2019 年 10 月開催予定) に向けて、プログラム委員会の状況について、事務局と情報共有した。 ・ 11 月 12 日に予定されている研究会長・部会長会議での栄養研究部会からのプレゼンテーション内容について、情報共有した。
11, 12 月	<p>1. 研究会長・部会長会議 (11 月 12 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年度の栄養研究部会の活動を報告。 ・ 2019 年度の栄養研究部会の活動方針を報告。

ILSI Japan 活動報告<2018>

栄養健康研究会

* GR プロジェクト

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none">第 3 回多施設試験追試第 3 回多施設試験追試意見交換会 (1/24 於 ILSI Japan 会議室)
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none">第 3 回多施設試験追試
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none">GR 多施設試験実施者会議 6/7 (ILSI 会議室)追試準備
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none">GR 多施設試験最終追試
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none">9 月 28 日 15 時~17 時 ILSI Japan 会議室GR プロジェクト報告会
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none">第 4 回 GR 法多施設試験 (2019 年 1 月~3 月を予定) 準備

栄養健康研究会

【茶類研究部会・茶情報分科会】

1, 2 月	
3,4 月	
5,6 月	
7,8 月	
9,10 月	
11,12 月	

食品機能性研究会

◆寄付講座「機能性食品ゲノミクス」

1, 2 月	・ 第Ⅲ期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
3, 4 月	・ 第Ⅲ期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
5, 6 月	・ 第Ⅲ期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。 ・ 9/18 に総括シンポジウム開催予定。
7, 8 月	・ 第Ⅲ期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。 ・ 9/18 に総括シンポジウム開催予定。
9, 10 月	9 月 18 日 シンポジウム「機能性食品科学の基盤から実用化に至る総合的成果と新たな息吹き」開催（参加者約 200 名）
11, 12 月	

健康な食事研究会

◆健康な食事研究会全体

<p>1, 2 月</p>	<p>○ 進捗報告会開催 2月19日(月) 13:30~17:30、日本橋公会堂 4F ホール プログラム 開会挨拶 東北大学 教授・名誉教授 宮澤陽夫 WG1 健康な食事の概念構築 東京大学大学院医学系研究科社会予防疫学分野 教授 佐々木敏 WG2 外食・中食・給食の実態把握 石巻専修大学 理工学部 教授 坂田 隆 WG3 社会実装 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 教授 桑田有 招待講演 日本栄養改善学会の取組み 女子栄養大学 栄養学部 教授 石田裕美 パネルディスカッション WG 活動を踏まえた今後の展開 モデレーター：ILSI Japan 理事長 安川拓次 パネリスト：佐々木敏教授、坂田隆教授、桑田有教授、石田裕美教授、 中村丁次神奈川県立保健福祉大学学長 閉会挨拶 ILSI Japan 理事長 安川拓次</p> <p>○ 女子栄養大学訪問 (2/1) 桑田、宇津、太田 ・武見ゆかり教授から女子栄養大学の取組み(認証制度)の情報収集及び ILSI Japan の取組みの経過説明</p> <p>○ 女子栄養大学訪問 (2/6) 安川、太田 ・石田裕美教授表敬訪問(講演依頼)と講演内容の打合せ</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>○ 全体会議予定 5月17日(木) 15:00~17:00 ILSI Japan 会議室</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>◆ 5月17日 「健康な食事研究会」第5回全体会議 ・各WGリーダーから2月の成果報告会後の活動報告と今年度の活動予定を発表した。 ・今後の全体会議の開催は当初の予定より1か月延期し、9月に第6回、12月に第7回と年内にあと2回開催する方向で調整中。</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>◆ 9月10日 第6回全体会議 各WGの進捗報告と活動計画の報告。第7回全体会議は1月を予定。</p>
<p>9, 10 月</p>	<p>・9/10「健康な食事研究会」第6回全体会議をILSI Japan 会議室で実施した(参加者21名)。各WGの進捗状況を確認し情報交換。2019年2月21日成果報告会発表、7月「イルシー」誌への掲載原稿締め切り、10月栄養とエイジング国際会議で発表、スケジュールに沿って、WG毎に勧めていく。 ・11月末に本部総会向けの進捗報告内容を各WG確認する予定。 ・次回は2/4 ILSI Japan 会議室 成果報告会発表内容。</p>

11, 12 月	<p>WG1 第 12 回勉強会 11/22 東大佐々木研で打合せを実施した。 報告書案の最終確認。考察の最後の部分をどうまとめるかについて議論。内容は、“グローバル化”、“ハイテンポ”の時代背景を加味し、① 世界の中の日本という中で日本食を取り扱うこと、② 時系列を持って日本食を取り扱うことの両方を記載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書として 12/17 に ILSI へ提出し、WG2, 3 に共有した。 ・ 次回は、第 13 回勉強会 1/25 東大佐々木研 次に何をやるかのプレストを行う予定。 <p>WG2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月—12 月ヒアリング完了 9 社 アンケート完了 2 社 ・ 12/19 進捗確認ミーティング (14 名参加) ILSI Japan 会議室 <p>日本惣菜協会からご紹介いただいた中食企業を中心にヒアリング内容を確認した。議事録は WG1, 3 に共有した。</p> <p>A (1 社インタビュー完了、1 社アンケート調査完了) B (3 社インタビュー完了、1 社アンケート調査完了、1 月 1 社インタビュー予定) C (4 社インタビュー完了。12 月中 1 社インタビュー予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ A は継続してヒアリングし、グループ B, C は外食産業に関しても訪問リストを用意して、分担する予定。中食産業はインタビューとアンケート合わせて合計 12 社で終了予定。 ・ 2/4 の全体会議で報告する内容は事前にメールで共有する。 ・ 日本惣菜協会及びご協力いただいた中食企業に 2/21 の進捗報告会をご案内する。 <p>WG3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康経営活動企業への食に関するヒアリングを 11 月に 3 社実施。 <p><累積ヒアリング状況 9 件> ・ 地方自治体：2 県・企業：7 社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回ミーティング (1/23 ILSI Japan 会議室) にて、これまでのヒアリングで得られた知見 (9 件) のまとめ (共通する成功・失敗要因の抽出) と、本年の活動内容について議論する。 <p>研究会全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康な食事研究会進捗報告会 (日時：2019 年 2 月 21 日 於：日本橋公会堂) に関して、ILSI Japan 会員企業へメールで 12/20 に連絡した。 ・ 進捗報告会の講演者は、健康な食事研究会の各 WG リーダーの他に以下の先生 2 名をお願いした。 <p>□講演 1 日本食パターンが心身の健康に及ぼす影響について 15:30 ~ 16:00 東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公衆衛生学分野 教授 辻 一郎</p> <p>□講演 2 健康寿命延伸への取り組み メタボとフレイル 16:00~16:30 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事 国立健康・栄養研究所 所長 阿部圭一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/4 第 7 回全体会議 ILSI Japan 会議室 進捗報告会発表内容確認、進捗報告会フラッシュレポート担当者決定 (「イルシー」誌 139 号・5 月中旬原稿締め切り)、10 月「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュール確認 (「イルシー」誌 140 号・7 月末原稿締め切り、「イルシー」誌 141 号・11 月中旬締め切り)
----------	---

◆ワーキンググループ1(WG1)科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築

1, 2 月	<p>第 5 回会合 (1/12) 東京大学佐々木研究室 日本食の論文調査から、「Japanese Food」を読み解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーを A/B に分けて 283 論文 (PubMed) を確認、グループ間で 80 報程度の相違があり、その点を中心に議論した。 ・議論の展開を題材に、佐々木先生から疫学の基本と論文の評価手法を教授いただいた。 <p>第 6 回会合 (2/13) 東京大学佐々木研究室 日本食の定義を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・283 論文から 146 論文を抽出、日本食の定義の有無と試験分類を調査した結果、オーソライズされた明確な「日本食」の定義は無いとの結論を得た。 <p>今後の予定 各論文内での「日本食」の定義について、4 基準で分類し、今年度報告書 “Studies on Japanese Diet の研究動向” として取りまとめる (3 月開催予定)。</p>
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回会合 (3/8) 東京大学佐々木研究室 日本食のエビデンス調査として進めている包含基準と除外基準に照らし合わせ、抽出した 146 報の分類を行っている。「日本食の定義」について、定義の有無、引用文献の有無の基準を設け、再検討を宿題とした。 <p><今後の進め方について>「日本食の定義」についての調査結果として今後まとめる予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回会合 (4/10) 東京大学佐々木研究室 <ol style="list-style-type: none"> ① 「日本食の定義」の調査について解釈の見解に不一致があるものについて再検討を実施 ② 報告書「日本食の定義」の調査のまとめ ③ 5/17 全体会議の報告内容 ・今後の予定 第 9 回健康な食事研究会 WG1 日時・場所：6/7 木 15：30－17：30 東京大学佐々木研究室 宿題： 報告書作成に関わる質問項目への回答
5, 6 月	<p>◆ 6 月 7 日 第 9 回勉強会、東京大学佐々木研究室 報告書作成に関わる質問項目への回答と宿題の分担。 次回は 8 月 1 日を予定。</p>
7, 8 月	<p>◆ 8 月 1 日 第 10 回勉強会、東京大学佐々木研究室 報告書作成に関して課題を整理した。先行研究の日本食の定義の分類と第 1 基準の問い「科学的に検証されている定義か」の表現に関して議論した。次回は 10 月上旬で日程調整中。</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・10/2 東大佐々木研で打合せを実施 (参加者 10 名)。日本食の定義について、文献調査よりピックアップした 283 報を精査し、116 報を対象に 5 基準に分類。 ・第 1 基準を「普遍的な日本食として定義されている；ある集団で開発された日本食の定義が別の集団で検証されている」に変更すると共に、定義された日本食をレベル別 (栄養素、食品、料理、食事) でも分類を終了した。 ・報告書として年内に ILSI Japan へ提出予定。 ・次回は 11/22 東大佐々木研。
11, 12 月	

◆ワーキンググループ2(WG2) 外食・中食・給食の実態把握

<p>1, 2 月</p>	<p>会合 (1/29) ILSI Japan 会議室 ラウンドテーブルまとめからの共通認識。 ・健康メニューと消費者意識のギャップが存在。 健康を前面に出した食事・メニューは売れないが、消費者は健康を意識している。 ・企業のコンセプトが違う、あるいは消費者の意識変容を促す必要があるのかもしれない。 ・各業界の加盟団体や業務構造は想像以上に複雑である。 ・企業の拠り所としての指針、ガイドラインが必要。 現状は「食事摂取基準」、「健康日本 21」。</p> <p>今後の活動について ・2019 年 10 月に開催される「栄養とエイジング」国際会議での成果発表を目標。 ・関連業界への追加ヒアリング（例えば惣菜協会、大学生協）と中食に絞った調査の実施。 ・消費者の栄養摂取量（エネルギー、タンパク質、食塩等）に対する各業界寄与率に関する文献情報調査の実施。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>第 1 回拡大事務局会 (3/15) ・第 2 回 WG2 ミーティングの振り返り ・追加ラウンドテーブルの方向性 ・「中食」の企業調査の方向性</p> <p>第 3 回 WG2 ミーティング (4/20) ILSI Japan 会議室 ・健康な食事に関する情報提供、宅配食は 5 日間でカロリー塩分バランスを設定。学校給食は「学校給食摂取基準」により 1 週間でバランスを設定。微量栄養素は、30 日が目安。 ・5 月 7 日に厚労省が配食の協会を設置予定。 ・「中食」「ファストフード」の定義 ・生活者/消費者の食事・栄養摂取実態に関する文献調査の報告 文献や調査報告書を紹介。「国民健康・栄養調査」データから外食・中食・給食別の摂取カロリー、栄養素量が算出可能か検討。内食/中食の区別ができず、算出は不可能であった。 ・今後の活動について ・ラウンドテーブル (6~7 月) 候補：日本べんとう振興協会、日本惣菜協会等 ・企業インタビュー (下期開始) ① 質問内容を纏める、② 倫理委員会への申請、③ WG2 調査員の宣誓書、相手への覚書の準備 (目的、情報の取扱法を明記する)</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>◆ 7 月 10 日 第 4 回ミーティング 惣菜業界の実情、考え方、インタビューする企業の候補等を惣菜協会からヒアリング。質問事項の整理。次回は 7 月 27 日。</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>◆ 7 月 27 日 第 5 回ミーティング、インタビュー希望企業の業態別集計結果の確認と作業分担グループ分けを実施した。健康や栄養に関して消費者向けメッセージや取組みを問う質問を整理した。 次回は未定</p>

9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> • 日本惣菜協会本部への訪問可能性の問合せと会員企業メールアドレスを入手。 • 3 グループ ABC に分け、A 赤松先生、B 高田先生、C 坂田先生を調査リーダーに活動することとし、質問紙を確定させた。9/14（4名）・19（7名）・25（5名）の3日間で情報をメンバー全員に共有した。 • 10/22・23・11/2 に中食産業企業へのインタビューを実施。他の企業は調整中。 • 次回は 12 月を予定（進捗確認）。
11, 12 月	

◆ワーキンググループ3(WG3)健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証

1, 2 月	<p>会合 (2/5) ILSI Japan 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗報告会の発表資料の確認 ・活動の方針として、社会実装ありきではなく、健康な食事の持続的実現の視点、アプローチを探す。事例の収集から始める。
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・会合 (3/19) ILSI Japan 会議室 ・会合 (4/20) ILSI Japan 会議室 ・花王(株)より、「スマート和食®」の社会実装に向けた取組み内容や、留意・工夫点、得られた気づき等を紹介された。 ・今後は、ラウンドテーブルを実施し、その成功要因や失敗要因の類型化を図ることとした。 ・類型化を行うためのフレームワークを作成し、今後はそれをベースにラウンドテーブルを実施する。
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 5月23日 長野県健康福祉部健康増進課を訪問し、「信州 ACE プロジェクト」に対し、当 WG 勉強会での講演を依頼し、快諾いただいた。 ◆ 6月28日 リーダー・サブリーダー打合せ 今後の方向性と役割分担の確認。健康経営優良企業のヒアリング先候補の確認。 ◆ 7月24日 勉強会 長野県ヒアリング。次回は8月8日。
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ◆7月24日 勉強会、長野県健康福祉部ご担当者様による講演会(信州 ACE プロジェクト) ◆8月8日ミーティング 健康経営企業の食を中心としたインタビューを通して社会実装の類型化を行うために、長野県の事例をメンバー間で意見交換した。今後、参加メンバーが1社1団体訪問する方向で事例を蓄積する。次回ミーティングは11月末を予定。
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・健康経営に関して訪問候補企業のリスト化、健康経営活動企業への食に関するヒアリングの実施。 ・WG3 参加企業1社が1団体を訪問する予定で訪問先の調整中。(10月1社訪問済み。11月中に3社訪問予定) ・次回は12月を予定(進捗確認)。
11, 12 月	

【Project PAN (Physical Activity and Nutrition)】

<p>1, 2 月</p>	<p>1/18, 2/1 自主サークルスカイテイクテン (押上オレンジルーム, 墨田区) 1/23, 30 震災被災地支援: いしのまきテイクテン (南境第四仮設団地集会, 石巻市) 1/25 自主サークルなでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区) 2/5, 19 横浜市都筑区社会福祉協議会主催「食べて動いて健康づくり～TAKE10!～講座」 (第1回, 第2回) (横浜市都筑地区センター) 2/22～23 墨田区主催「栄養・口腔講演会」<1日目> 口腔ケアに関する講義 <2日目> 調理実習 (八広地域プラザ, 墨田区) 2/28 きよらテイクテン担当者会議 (益田市シルバー駅前サロン, 島根県)</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>3/1～2 津和野町複合交流拠点施設実証実験 (日原賑わい創出拠点(仮)プレオープンイ ベント): 「テイクテン～介護予防も楽しんで学べます!」テイクテン教室3回実施 (島根 県) 3/2 テイクテンリーダー講習会 (日原賑わい創出拠点(仮), 島根県) 3/5, 19 区内地域ケアプラザ・都筑区社会福祉協議会主催 「食べて動いて健康づくり～ TAKE10!～講座」 (第3回) (第4回) (横浜市都筑地区センター) 3/6 石垣プロジェクト結果報告会 (綱町三井倶楽部, 港区) 4/19 自主サークルスカイテイクテン (押上オレンジルーム, 墨田区)</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>5/2 LiSM10!プログラム, 米国 NCI (National Cancer Institute) の RTIPs (Research-Tested Intervention Programs) Web サイトに掲載 5/14 ビデオ「先輩に続け! いしのまきテイクテン～石巻専修大学の試み」YouTube 掲載 5/22 震災被災地支援: いしのまきテイクテン (石巻専修大学, 南堺第四団地集会所) 5/31 自主サークルなでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区) 6/6 介護予防「らくらく教室」講習会 (地域包括支援センター千住本町, 足立区) 6/19 震災被災地支援: いしのまきテイクテン (石巻専修大学, 南堺第四団地集会所) 6/20 石垣プロジェクト報告会 (大日本印刷, 品川区)</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>7/10 震災被災地支援: いしのまきテイクテン (石巻専修大学, 南堺第四団地集会所, 宮 城県) 8/16 自主サークルスカイテイクテン (押上オレンジルーム, 墨田区) 8/21 ・リーダー講習会 (吉賀町社会福祉協議会) ・テイクテンきよらプロジェクト会議 (吉賀町福祉センター会議室) 参加者; 津和野町シルバー人材センター, 益田市シルバー人材センター, 岩国市 社会福祉協議会, 吉賀町社会福祉協議会, 吉賀町地域包括支援センター各代表者、 ILSI Japan ・テイクテン講座 (吉賀町七日市公民館) 8/22 テイクテン講座 (吉賀町立戸サロン/ 抜月サロン, 島根県)</p>
<p>9, 10 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p>

	<p>9月11, 12, 14, 21, 25, 26日 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター）</p> <p>9月27日 すみだテイクテン自主グループサークル なでしこテイクテン（中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区）</p> <p>10月9, 10, 12, 23, 24, 26日 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター）</p> <p>10月19日 すみだテイクテン自主グループ交流会（すみだ女性センター）</p> <p>10月25日 第77回日本公衆衛生学会総会で発表「介護予防教室参加者の社会的孤立と食習慣、体操習慣との関連性について」（ビックパレットふくしま, 郡山市）</p>
11, 12月	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月7, 9, 13, 16, 21, 27日 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター） ・11月12日 墨田区介護予防サポーター養成講座（墨田区役所） ・11月20日 江戸川人生総合大学介護健康学科1年次講義（篠崎文化プラザ, 江戸川区） ・11月27-28日 島根県のIT企業における介入試験に関し島根大学等と打ち合わせを実施（島根大学） ・12月5, 7, 11, 19, 21, 25日 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター） ・12月6日 すみだテイクテン自主グループサークル（スカイテイクテン（オレンジルームむこ3 墨田区） ・12月12日 すみだテイクテン自主グループサークルYYテイクテン（中ノ郷信用組合本店 墨田区）

CHP

【Project IDEA(Iron Deficiency Elimination Action)】

1, 2 月	特になし
3, 4 月	特になし
5, 6 月	特になし
7, 8 月	栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) の委託事業としてのカンボジアでの栄養改善プロジェクト (栄養強化米による工場食の栄養改善) について、人間総合科学大学およびカンボジアのパートナーである RACHA (Reproductive and Child Health Alliance) と業務委託契約を締結した (8月)。
9, 10 月	
11, 12 月	

CHP

【Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®)】

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	<p>9 月 20 日 NJPPP 事務局、都給食、ILSI Japan CHP で打ち合わせ。インドネシアでの「職場の栄養プロジェクト」を協働で 11 月に立ち上げることで合意した。10 月の NJPPP 運営委員会での承認へ向けた準備を進める。(食品産業センター, 東京)</p> <p>10 月 1-8 日 カンボジア職場の栄養プロジェクト: プロジェクト立ち上げに向け、取組が出張し、FNRI (フィリピン)、カンボジアのパートナー RACHA、政府等関係機関他と打ち合わせを行った。</p> <p>10 月 29 日~11 月 3 日, 人間総合科学大学 中西先生がカンボジア出張し、Baseline study を実施した。11 月初めより栄養強化米を用いた介入試験 (12 週間) を開始する予定。</p>
11, 12 月	<p>◇ インドネシア</p> <p>11 月 11-16 日 現地日系給食業者による改善した工場食とテイクテンを組み合わせた健康的な食生活導入へ向け, 研究委託先のボゴール農科大学と打ち合わせを実施 (ボゴール, デルタマスシティ)</p> <p>◇カンボジア</p> <p>被験者が栄養強化米の摂取頻度が低い等の問題があり、強化米導入と健康教育に関し、RACHA と実施工場のマネジメントとで対策を協議</p>

CHP

◆CHP 全体

1, 2 月	特になし
3, 4 月	特になし
5, 6 月	特になし
7, 8 月	特になし
9, 10 月	特になし
11, 12 月	特になし

国際協力委員会

<p>1, 2 月</p>	<p>部会開催：2月26日（月）</p> <p>議題：</p> <p>1) 各国法規制のリンクの有効性調査：結果と今後の進め方 各国報告書に記載されたリンク先の有効性について昨年、委員で手分けして調査した結果を基に、今後どうするかを検討した。</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●データベースの見目は美しいが、情報が更新されていないため具体的な事業に係わる判断には使えないのが現状。 ●事務局に外部から問い合わせがある際は、過去の調査時点での情報であり更新はしていないと回答している。 ●委員より、PDF に埋め込まれたリンクを探し出しリンク先の有無を容易に確認できるフリーのプログラムがある、という情報提供があった。 <p>【課題・問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フリープログラムで調査が可能なのは、リンク先の有無までである。リンク先があったとしても、①リンク先に直接目当ての情報がある場合、②リンク先からどこか別の箇所に目当ての情報がある場合の2つがあり、いずれにしても精査が必要となる。 ●委員で長時間かけてリンクを確認しても、目的とする情報にたどり着くかどうかはわからない。 ●本当に情報が有効利用できるようにするための更新作業には専任が必要と思われるが、外注等のための予算は無い。 <p>【結論】</p> <p>上記を鑑み、しばらくの間、本件に関する検討は凍結する。</p> <p>2) BeSeTo 会議で共有したい（してもらいたい）テーマについて： 今年の BeSeTo 会議は、台湾がホスト国となり 9 月に開催される予定である。1 月の ILSI 本部総会の場で各支部より紹介された各支部の活動内容をレビューしながら、新提案の「共有したいテーマ」の候補を議論し、大きく 4 つ候補を挙げた。この中から 3 月中に 1 つか 2 つに絞り込むべく、委員内でメール等を利用して議論していく予定である。 従来から継続しているトピック「法規関連の動向」に関しても、日本からの候補をいくつか挙げた。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>部会開催：3月2日（金）—4月5日（木）随時</p> <p>【議題①】</p> <p>2018 年の BeSeTo 会議（ホスト国：台湾）に先立ち開催されるサテライトシンポジウム の話題候補</p> <p>【議題②】</p> <p>同 BeSeTo 会議において、昨年の BeSeTo 会議で提案した「新たな 枠組み」として「参加支部間で共有したい話題」の候補 全員で集っての会議は実施せずに、上記 2 つの議題に関し委員間で</p>

	<p>メールでの意見募集と議論を行い、それぞれ日本としての意見をまとめて事務局より ILSI 台湾に連絡した。</p> <p>【日本の意見提出】</p> <p>議題①に関しては、3月26日（月）に意見が集約された以下3案を提出</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Dietary Intakes Survey or Food Composition Database（摂取量（暴露量）評価や食品成分データベース） 2) Reduction of salts/sugars intake strategy/campaign, with reference to WHO Recommendations (There are many traditional foods containing much salt in Asia. It might be better to discuss the issue considering potassium salt as well.) （糖類や塩分摂取の削減に関する WHO の勧告に基づく各国での戦略やキャンペーン活動） 3) Front of Package – practice in Asian countries（FOP：製品に含まれる栄養素に関してパッケージ正面に表示される様々な記号の取組のアジア諸国の実践例） <p>議題②に関しては、候補を1つに絞り4月5日（木）に以下を提出</p> <p>“Issues and policies on nutrition of each country”（栄養に関する各国の課題と政策）</p> <p>【ホスト国よりのフィードバックおよび日本の対応】</p> <p>議題①のサテライトシンポジウムの話題は、以下に決定。</p> <p>"The practical implementation of food microbiological criteria by regulatory authorities with focus on the sampling plan and risk management."</p> <p>これを受けて、日本で事務局を中心に演者の選定を開始。</p> <p>議題②に関しては、「新たな枠組み」は取り入れない旨通知があった。これを受けて、日本からは、参加支部が増えたことと時間的制約を鑑み了承した旨を返信した。</p> <p>【今後の予定】</p> <p>サテライトシンポジウムの演者の選定を進めることと、BeSeTo 会議での今年の日本からの発表内容およびプレゼンターの選定を行う。</p>
5, 6 月	<p>委員会開催：2018年6月7日（木）10:00～11:20</p> <p>【議題】 今年の BeSeTo 会議のテーマ等について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BeSeTo 会議の開催日程、プログラム、サテライトシンポジウムのテーマ、日本からの演者の件について。 <p>事務局から以下が委員に対して報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日程は9月13-14日、場所は THE HOWARD PLAZA HOTEL TAIPEI にて、台湾支部のホストで開催する。 ● 会議のプログラムの枠組みは従来通り4つ。 <ul style="list-style-type: none"> “Food safety issues and/or incidents” “Risk assessment” “Regulatory issues” “Branch collaboration” ● サテライトシンポジウムは全支部の希望を集約した結果、以下のテーマで開催することとなった。 <ul style="list-style-type: none"> “The practical implementation of food microbiological criteria by regulatory authorities with focus on the sampling plan risk management”

	<p>日本からの演者として、山口大学の豊福肇先生に依頼をしてご快諾をいただいた。豊福先生には、オーバービューと共に我が国の状況についても併せてご紹介いただく予定である。</p> <p>2. BeSeTo 会議での日本支部からの発表テーマについて 議論の結果、候補としては 5 つ挙げられた。 5 つ中 4 つが Regulatory issues に集中していた。 出席できなかった委員も含めて、引き続き全員に対しテーマを募集し次回の会議で議論することとした。 発表テーマによっては委員以外の演者を依頼することになるため、早くテーマを決める必要がある。</p> <p>次回会議は、7 月 5 日（木）の 15:00～17:00 の予定。</p>
7, 8 月	<p>委員会開催 2018 年 7 月 5 日（木） 15:00～16:30 【議題】 2018 年 BeSeTo 会議とサテライトシンポジウムの発表テーマについて、他</p> <p>1. BeSeTo 会議に先立ち行われるサテライトシンポジウムにつき、事務局より更新情報が共有された。</p> <p>① キーノートは日本からの山口大学の豊福先生に加えて台湾の Dr. Yao-Wen Huang の 2 名が演者となった。</p> <p>② 各支部は、国もしくは地域の食品の微生物規格基準設定とサンプリングプランおよびリスクマネジメントに関してその取り組み状況をアップデートする。ただし日本の情報は豊福先生の講演の中に入れていただく。</p> <p>2. BeSeTo 会議での日本からの発表テーマの件を前回に引き続き協議し、5 つに絞った。このうち 2 つのテーマに関しては、その専門性の観点から国際協力委員会委員以外からの発表が望ましく、事務局を通して候補の方々へ可能性を打診し 7 月半ばまでに回答得ることになった。</p> <p>3. メンバーの異動・交代の案内：7 月 1 日をもって、事務局長が宇津氏から中村氏に交代となったことと、その他委員の所属変更などが委員間に共有された。</p> <p>委員会開催 2018 年 7 月 25 日（水） 15:00～16:30 【議題】 2018 年 BeSeTo 会議における日本からの発表テーマについて 前回の委員会での議論を受けて、日本からの発表テーマと演者候補者を決めた。 <u>BeSeTo 会議での日本からの発表テーマ：</u> 前回の委員会後、2 つのテーマに関しては専門性の観点から国際協力委員会メンバー以外の演者候補の方々に発表の可能性を打診した結果、この 2 つのテーマは発表から外すことに決定した。</p> <p>事務局長より、次の台湾事務局からの更新情報が共有された。</p> <p>① 中国が、香料と香水など化粧品に関する法規改正に関して発表する予定である。 ② その際、最近アジア地域では香料に関する大きな法規改正が続いているので、長めの Q&A セッションを設け各国の状況を共有して欲しいとの要望があった。</p> <p>これを受けて、日本からは予定していた発表枠の他に本件の Q&A セッションでの日本の</p>

	<p>状況を共有する発表者を決めた。</p> <p>議論の結果、上記に加えて以下のテーマが決定し、演者候補者も決定した。</p> <p>(Regulatory)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The latest update of Food regulation in Japan: 2. The latest update of Additives regulation in Japan: (Food safety issues and/or incidents) 3. Major incidents in Japan: <p>(Others)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. “ILSI Japan’s activities to enlighten the pharmacist for functional foods”: <p>議論の中で、それぞれのテーマの具体的な発表内容について様々な意見が出たが、最終的な発表内容は演者に一任することとした。</p> <p>台湾事務局からはまだ締め切りの案内が来ていないが、演者は8月末を目途に発表マテリアルの準備を進める。</p>
9, 10 月	<p>委員会開催：2018年10月17日（水）16:00～17:30</p> <p>【議題】</p> <p>① BeSeTo 会議報告</p> <p>2018年9月13日（木）～14日（金）に台湾の台北で開催されたサテライトシンポジウムおよび BeSeTo 会議について、出席した委員より報告があった。</p> <p>アジェンダに沿って各セッションのハイライト、議論の内容などの概要が他の委員に共有された。同会議の詳しい報告は、「イルシー」誌に記載される予定である。</p> <p>なお、事務局から、次期ホストの東南アジア支部より次回の BeSeTo 会議を 2019 年 9 月 24～27 日にマレーシアのペナン（Penang）で開催する方向で計画中であるとの連絡があった旨の報告がされた。</p> <p>② 国際協力委員会今年の活動実績報告と、来年の活動予定：</p> <p>国際協力委員会からの 2018 年の活動計画に対する実績報告と、2019 年の活動計画につき、委員に共有された。</p>
11, 12 月	<p>委員長交代のお知らせ：</p> <p>平成 28 年 4 月より国際協力委員会委員長を務めていたネスレ日本(株)の高橋智子氏が年内で退任し、平成 30 年 1 月より新委員長に長瀬産業(株)の松山菜月氏が着任することが委員に報告された。</p> <p>平成 30 年の初回委員会については、1 月 31 日（木）の 16:00 から開催予定である。</p>

【情報委員会】

<p>1, 2 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (1, 2 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 26 巻 2 号 (通巻 99 号) : 編集 (2/10 刊行) ・ 26 巻 3 号 (通巻 100 号) : 翻訳・監修・編集 (5/10 刊行予定) ・ 2/13 編集委員会開催 (通巻 101 号の採択論文・翻訳者候補決定)
<p>3, 4 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (3, 4 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 26 巻 3 号 (通巻 100 号) : 監修・編集 (5/10 刊行予定) ・ 26 巻 4 号 (通巻 101 号) : 翻訳・監修 (8/10 刊行予定)
<p>5, 6 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (5, 6 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 26 巻 3 号 (通巻 100 号) : 5/10 刊行 ・ 26 巻 4 号 (通巻 101 号) : 監修、編集 (8/10 刊行予定) ・ 5/28 編集委員会開催 (通巻 102 号の採択論文・翻訳者候補決定) ・ 27 巻 1 号 (通巻 102 号) : 翻訳 (11/10 刊行予定)
<p>7, 8 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (7, 8 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 26 巻 4 号 (通巻 101 号) : 8/10 刊行 ・ 27 巻 1 号 (通巻 102 号) : 翻訳、監修、編集 (11/10 刊行予定) ・ 8/29 編集委員会開催 (通巻 103 号の採択論文・翻訳者候補決定)
<p>9, 10 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (9, 10 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 27 巻 1 号 (通巻 102 号) : 翻訳、監修、編集 (11/10 刊行予定) ・ 27 巻 2 号 (通巻 103 号) : 翻訳、監修 (2019/2/10 刊行予定)
<p>11, 12 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (11, 12 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 27 卷 1 号、通卷 102 号、11/10 発刊・ 27 卷 2 号、通卷 103 号、6 論文、70 頁、翻訳、監修 発刊 2019/02/10 予定 |
|--|---|

***編集部会**

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌 133 号発行 ・ 「イルシー」誌 134 号原稿査読・編集 ・ 「イルシー」誌 135-137 号原稿依頼検討
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌 134 号原稿編集（5 月刊行予定） ・ 「イルシー」誌 135-137 号原稿依頼検討
5, 6 月	<p>「イルシー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 134 号：5 月刊行 ・ 135 号：原稿編集（8 月刊行予定） ・ 136～138 号：原稿依頼検討
7, 8 月	<p>「イルシー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 135 号原稿編集（9 月刊行） ・ 136 号原稿編集（11 月刊行予定） ・ 137～139 号原稿依頼検討、編集
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌 136 号原稿編集（10 月→11 月刊行予定） ・ 「イルシー」誌 137 号原稿編集（2019/01 月刊行予定） ・ 138－140 号原稿依頼検討、編集
11, 12 月	

事務局

【ILSI Japan 総会】

<p>1, 2 月</p>	<p>平成 30 年通常総会が 2 月 19 日（水）10 時より日本橋公会堂にて開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第 1 号議案 平成 29 年度事業活動報告書案が承認された。 第 2 号議案 平成 29 年度決算報告書案が承認された。 第 3 号議案 平成 30 年度事業活動計画書案が承認された。 第 4 号議案 平成 30 年度収支予算書案が承認された。 第 5 号議案 定款変更 貸借対照表の公告方法追加の件が承認された。 5 つの議案について質問はなかった。</p> <p>報告事項</p> <p>1. 本部総会報告</p> <p>2018 年の ILSI 本部総会の概要を報告。今年は ILSI40 周年の節目に当たり、スローガンである“Science Serving Society”を冠した ILSI Scientific Session が、全支部から選考され、研究成果として発表された。ILSI Japan からは「食品微生物部会」が、MALDI-TOF MS の発表を行った。他に、ガバナンス体制変革のための決議が理事会でなされた。またアジア支部会議を開催し、情報共有と、東京開催の ICN（国際栄養学会議）2021 年においてアジア支部共同のシンポジウム開催を提案した（詳細は、ILSI ウェブサイトを参照下さい）。</p> <p>http://ilsi.org/event/2018-ilsi-annual-meeting/</p> <p>2. 平成 30、31 年役員紹介</p> <p>木村修一理事の退任と他の理事 14 名と監事 2 名の重任を紹介した。</p>
<p>3, 4 月</p>	
<p>5, 6 月</p>	
<p>7, 8 月</p>	
<p>9, 10 月</p>	
<p>11, 12 月</p>	<p>第 6 回理事会が平成 30 年 12 月 21 日（金）に開催された。</p> <p>I. 決議事項</p> <p>議案：① 2018 年度収支見込最終案、② 2019 年度収支予算最終案</p> <p>① 2018 年度収支見込み最終案</p> <p>連結ベースでは、収入 67.6 百万円、支出 73.2 百万円、差引 5.6 百万円の損となる（予算に対して 0.7 百万円の改善）。プロジェクト基金連絡会（後述 PFC と略す）の資金の用途については、11 月 19 日に会長、理事長、桑田副理事長をメンバーとする審査会において各研究会・研究部会の申請案件を審議し、ILSI Japan（以下 Japan）に 0.6 百万円、ILSI Japan CHP（以下 CHP）に 7.9 万円の援助とした。</p> <p>Japan は予算の収支差額より、2.6 百万円改善し、CHP は 1.6 百万円の悪化であるが、その損失には NJPPP（栄養改善事業推進プラットフォーム）関連の経費の前倒し分が 3</p>

百万円程含まれており、これを除くと 1.4 百万円の収支改善となり、連結ベースでは 4 百万円の改善となる。

また PFC の資金の使途については、毎年資金提供の企業には報告することが確認された。

採決したところ、異議なく承認された。

② 2019 年度収支予算最終案

2019 年の収支予算案について連結ベースでは収入 84.1 百万円、支出 87.8 百万円、差引 3.7 百万円の損失となり、前年より損失額は 1.9 百万円減少する。

PFC の資金の使途については、11 月 19 日に前述のメンバーによる審査会にて各研究会・研究部会からの申請案を審議し、Japan の研究部会に 0.9 百万円と「栄養とエイジング」国際会議に 3.0 百万円、CHP に 4.6 百万円とした。

Japan の収入 67.8 百万円、支出 72.0 百万円で、差引 4.1 百万円の損失となる。損失の主な要因は、「栄養とエイジング」国際会議開催費用及び会費収入の減少による。CHP は収入 19.7 百万円、支出 19.2 百万円で差引 0.4 百万円の益となる。この数字には NJPPP 関連費用の前倒しがあり、実質は 2.6 百万円の損失となる。その結果、期末繰越額は、来年度末で連結ベース 82.0 百万円となる予定。

採決したところ、異議なく承認された。

II. 報告／討議事項

1. 研究会活動の活性化

1) 研究会活動の活性化

ア) 栄養とエイジング国際会議

初日、2 日目のプログラム講演者の 9 割が決定した。また、上原記念生命科学財団助成金 1.0 百万円の授与が決定した。

イ) 健康な食事研究会進捗報告

来年 2 月 4 日に全体会議を開催し、支部総会の会場で予定している「進捗報告会」の内容の確認をする。議題の原案の説明があり、最終報告は「栄養とエイジング」国際会議で実施することが報告された。

ウ) 食品安全性評価領域の動物実験代替プロジェクト

今後の進め方について、中江理事のアドバイスを基に、「情報収集」、「情報発信」、「研究推進」の 3 つのフレームワークを設定する。研究推進の重要テーマ「吸収性予測」、「食品データベースの構築」についてはワーキンググループを組織して進める。ILSI Europe と協働して 2020 年 10 月には、アジア・ワークショップ（東京）の開催を検討中。

エ) CHP

Project IDEA は、従来は鉄を使用した栄養改善活動であったが、今後は途上国の栄養バランスの改善をめざすプロジェクト活動として、Project DIET と略称する。カンボジアにおける職場の栄養改善を目的とした活動について、人間総合科学大学の中西先生が 10 月末に現地に出張し、ベースラインスタディを実施した。新たに NJPPP プロジェクトとして、インドネシアの日系企業の職場食堂における栄養改善活動を京都の都（みやこ）給食と共同で実施することが、NJPPP の運営委員会にて承認され、1 月から現地で進めることになった。

島根県の IT 企業が「健康経営」の観点から従業員を対象としてテイクテンのチェックシートを活用した栄養啓発活動等のプログラムを実施する方向となり、島根大学及び当該 IT 企業のパートナーとして、11 月に打合せを実施した。

オ) 会議報告

□ バイオテクノロジー研究会 11/7 ERA 国際ワークショップを開催した。遺伝子組み換え植物の生物多様性影響評価に関するワークショップ、副題 隔離圃場試験のデータトランスピリティに関する考察とし、内外の学者ら 8 名による講演とパネルディスカッションを実施した。

□ 第 9 回「日本くすりと食品機能フォーラム（認定薬剤師研修講座）」を 11/25 に開催。講演演題は、①「緑茶成分と機能性～テアニンと茶カテキンを中心として」太陽化学、② アミノ酸の機能～ロイシン高配合必須アミノ酸と機能性表示食品～味の素。受講者数は 185 名、累計で約 1,000 名に達した。次回は来年 7/28 を予定。

2) ILSI 本部関連報告

2019 年 1 月 8～13 日まで開催の 2019 年本部総会のプログラムサマリーを紹介。理事会・総会については、チェアマンの交代があり、ガバナンス面の本部理事会構成員の役割定義と実現の実施プロセスの検討をする。

サイエンス・プログラムとして、テーマの説明と 6 セッション構成の内容を説明した。

日本からは東京大学の生命環境科学系助教授の笹井浩行先生に講演いただく。

3) 支部総会次第案

・日時・場所 2019 年 2 月 21 日（木）午前 10:00～11:30

日本橋公会堂（日本橋蛸殻町）

・議事 ①2018 年事業活動報告、②2018 年決算報告、③2019 年事業活動計画、④2019 年収支予算。

・報告 本部総会報告

【事務局】

1, 2 月	事務局次長として貢献された太田裕見氏が、2 月末で退職。
3, 4 月	4 月より、キリン(株)OB の横向慶子氏が事務局次長として就任、「栄養とエイジング国際会議」、「健康な食事研究会」を担当。同じく花王(株)より中村英世氏が事務局次長に就任、本部のガバナンス強化対応、支部交流業務を担当。
5, 6 月	特定非営利活動促進法の改正による、貸借対照表の公告の義務化に伴い、昨年度の貸借対照表を 6 月 22 日に弊機構のホームページ上に掲載。
7, 8 月	7 月 1 日付にて事務局長が、花王(株)より出向の宇津敦氏から、次長の花王(株)中村英世氏に交代。 7 月 2 日付にて味の素(株)より出向の取出恭彦氏が事務局次長に就任、戸上理事の CHP 代表の後任となる。
9, 10 月	特になし
11, 12 月	11 月 30 日付にて、キッコーマン(株)から出向の杉崎祐司氏が退職。12 月 3 日付にて、キッコーマン(株)の小幡明雄氏が事務局次長として就任した。

【理事会】

1, 2 月	<p>○第 1 回理事会が、平成 30 年 2 月 6 日（火）に開催された。</p> <p>決議事項 (総会議案)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 平成 29 年度活動報告書案 各研究会、研究部会ごとに活動計画の要点を説明した。質問なく承認された。2. 平成 29 年決算報告書案 ILSI Japan の黒字の収支差額と ILSI Japan CHP の赤字の収支差額を連結すると、65 万円の黒字となった原因を説明した。質問なく承認された。3. 平成 30 年度活動計画書案 各研究会、研究部会ごとに活動計画の要点を説明した。質問なく承認された。4. 平成 30 年度収支予算書案 ILSI Japan の収支が、東大寄付講座の終了等により赤字となること、ILSI Japan CHP の収支について企業サポートの縮小等に対処すべく、企業以外のドナーを見込んだ予算を組んだが、若干の赤字となることを説明した。数字に関して質問はなく、収支改善のための議論をし、承認された。5. 定款の変更・貸借対照表の公告方法追加 NPO 法人の法律が改正され、毎年の貸借対照表をネットや新聞等で公開する必要性が生じたので、ILSI Japan として、当機構のホームページに掲載することと、それを定款に記載することの提案を説明した。意見なく、全員が承認した。 <p>報告</p> <p>支部総会報告事項</p> <ol style="list-style-type: none">① 本部総会報告 今年は 40 周年の節目に当たり、スローガンである“Science Serving Society”を冠した ILSI Scientific Session が、全支部から募集・選考された研究成果発表で構成された。日本支部から成果発表をした。② 平成 30、31 年の次期役員候補 木村修一理事が退任し、他の理事 14 名かつ監事 2 名は重任することを全理事が承認した。 <p>○第 2 回理事会が、2 月 25 日（日）に開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>第 1 号議案 理事長選出 安川拓次理事が推薦され、満場一致で承認され、本人は即時に受諾した。</p> <p>第 2 号議案 会長選出 宮澤陽夫理事が選出され、本人は受諾した。</p> <p>第 3 号議案 副理事長選出 桑田有理事、木村毅理事、坂田隆理事、谷口茂理事が選出され、受諾した。</p> <p>第 4 号議案 理事長代理人の選出 理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときに職務を代行する副理事長として、木村毅副理事長が選出され、受諾した。</p>
3, 4 月	<p>○第 3 回理事会が、平成 30 年 4 月 27 日（金）に開催された。</p>

<決議事項>

1. Scientific Integrity Principles 採択

「食品科学と栄養研究への資金拠出に関する原則」を採択した。ILSI Japan メンバーすべてが順守することが求められる。

2. イルシー誌在庫処分

災害時備蓄食料の保管場所がなく 10 冊ずつ残し、廃棄することを提案した。損益への影響は、2.5 百万円。質疑応答の末、承認された。

<討議事項>

1. 研究会活動の活性化

ア) 健康な食事研究会状況報告

2 月 19 日に日本橋公会堂にて研究会発足から 1 年後の成果を各ワーキンググループより報告。同時に栄養改善学会の取組み、「健康な食事・食環境認証制度（スマートミール）」の紹介を行った。また各 WG の 3 月、4 月に開催した会議内容の報告をした。

イ) 寄付講座の今後について

来年の 3 月末にて第Ⅲ期が終了する。総括シンポジウムを本年 9 月 18 日に開催予定。開催時の構想と成果を整理して、歴史を冷静に振り返ること。個々のテーマと寄付講座のつながりを明確にする予定。

ウ) 動物試験代替タスクフォース

国立医薬品食品衛生研究所との協働を取り付けたこと、食品リスク研究部会にて日本の法規情報を整理し 6 月末までに ILSI Europe に提出すること等を報告。

エ) 栄養とエイジング国際会議準備

開催予定日は 2019 年 10 月 1~2 日、予定会場は東京大学農学部弥生講堂一条ホール。プログラム委員会初の会議を行い、全体のコンセプトや議論内容を説明した。それを整理して理事に書面で配付し、7 月の理事会では、意見をいただき最終とする。その前に過去の予実算の実績等、データを整理して、組織委員会を開催する。そこで下部の委員会（プログラム以外の財務、広報、レセプション、総務）を決める予定。近日中に開催。

オ) BeSeTo 会議の計画

日程は、今年 9 月 13~14 日、場所は、台北にて。サテライトシンポジウムのテーマ、構成については意見を提出済み。スピーカーの選定を急ぐ必要あり。会議のプログラム枠組みは、従来と同じで、ILSI Japan からの発表候補に、NGS、MALDI/TOFMS、「日本くすりと食品機能フォーラム」を入れる方向で検討中。

カ) 研究会・研究部会への活動支援スケジュール

昨年に引き続き、研究会・研究部会への資金支援行う。今年の日程を説明した。

2. 本部関連報告・総会時の Scientific Program

今年は北米と RF が開催したが、来年以降、ILSI 全体で開催し、オープンシンポジウムとする。来年の 6 つのセッションのうち、3 つを北米以外の支部が担当。全体のテーマは“Brave New World in Nutrition & Food Safety”。エントリー募集があり、ILSI Japan から“Technologies for Improving Accuracy of Dietary and Physical Activity Assessment”を案として提出した。

5, 6 月	開催なし。
7, 8 月	<p>○第4回理事会が、平成30年7月24日（火）に開催された。</p> <p><決議事項> 今回なし。</p> <p><報告／討議事項></p> <p>1. 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 「栄養とエイジング」国際会議 企画案 ①趣意書、②プログラム及び講演者、③投稿ジャーナル、④助成団体の内容が説明され、それぞれ議論された。</p> <p>イ) 健康な食事研究会進捗報告 全体会議と各WGの活動報告と今後の予定を説明。</p> <p>ウ) 寄付講座総括シンポジウム 9月18日（火）に東大の弥生講堂にて、寄付講座の総括シンポジウムを開催する予定。タイトル（案）は「機能性食品科学の基礎研究から開発研究の統合的成果と新たな息吹き」。</p> <p>エ) 動物試験代替タスクフォース 「ILSI Japan 食品安全領域の動物実験代替法の推進プロジェクト（略称 ILSI Japan AAT プロジェクト）」を発足予定（9月～）。 ILSI Europe が9月に開催するワークショップに AAT プロジェクトから参加予定。</p> <p>オ) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年の BeSeTo 会議 台北にて、9/13～14 にて開催。 日本から山口大学の豊福先生に講演していただく予定。 ・NGS プロジェクト ILSI Europe と “Food Microbiology” へ共同投稿 2019年春 公開シンポジウム開催予定。 ・バイオテクノロジー研究会。ERA ワークショップを11月開催予定。 <p>2. ILSI 本部関連報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス強化 ILSI 総会の構成及び理事選任方法の見直し、及び理事構成の見直し。 ・2019年総会時のサイエンティフィック・プログラムは北米が3セッション、他支部が3セッションを企画し、外部へオープンなセッションを開催予定。 <p>3. 戸上理事の CHP 代表退任のご挨拶</p>
9, 10 月	<p>○第5回理事会が、平成30年10月19日（金）に開催された。</p> <p><決議事項> 今回なし。</p> <p><報告・討議事項></p> <p>1. 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 栄養とエイジング国際会議</p>

<p>11, 12 月</p>	<p>趣意書を会員企業に配信し現在 18 社が参加する予定。</p> <p>イ) 健康な食事研究会進捗報告 第 6 回全体会議 (9/10) でのワーキンググループごとの活動内容について報告した。</p> <p>ウ) 食品安全性評価領域の動物実験代替プロジェクト 10/2 にキックオフ会議を開催し、参加企業数は 14 社となった。内容としては、ILSI Europe が 9 月に開催したワークショップの内容報告、今後の予定等を情報共有した。</p> <p>エ) CHP 途上国の栄養改善について、NJPPP (栄養改善事業推進プラットフォーム) のプロジェクトとして、カンボジアにおける職場の栄養改善を目的とした活動を、人間総合科学大学、カンボジアの NGO (RACHA) らと共同スタディとして立ち上げた。栄養教育に TAKE10!® を活用する予定。また TAKE10!® の活動 (墨田区受託事業 14 年目のスタート、島根県吉賀町受託事業、石巻専修大学学生による普及支援等) について報告した。</p> <p>オ) 会議実績報告と今後開催の会議連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 9 回 ILSI Japan ライフサイエンスシンポジウム「健康寿命の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合」を 7/26 に東大弥生講堂にて開催。 ● 第 8 回「日本くすりと食品機能フォーラム (認定薬剤師研修講座)」を 7/29 に開催した。講演演題は、①「大豆タンパク質の補完医療としての役割」不二製油 G 本社、②還元型コエンザイム Q10 の生理活用～抗疲労・抗酸化・エネルギー産生 (株) カネカ。 ● BeSeTo 会議 9/13～14 台北にて開催。日本から山口大学の豊福先生に「国際食品規格の微生物学的基準のガイドライン、微生物学的基準とリスクマネジメントの実例と日本での微生物学的基準の更新内容」と題し、講演いただいた。 ● 東京大学主催の寄付講座総括シンポジウムを、9/18 に開催。2019 年 3 月で、3 期 15 年の ILSI 寄付講座が終了。その成果と課題が浮き彫りになり、次の方向性が明確になる場とした。 ● バイオテクノロジー研究会 11/7～8 に ERA 国際ワークショップを開催予定。 <p>2. 2018 年収支見込、2019 年収支予算第 1 次案 当年の収支見込は、連結ベース (ILSI Japan と CHP の合算) では、予算の収支より良くなる予定。しかし、収入に不確実な点があり、確認中。 来年の収支は、「栄養とエイジング」国際会議の開催年に当たり、収支の悪化は避けられない状況であるが、なるべく収支差額の赤字を小さくし、確実なところを予算に反映するよう計画する。</p> <p>3. ILSI 本部関連報告 8/22 に本部理事会が開催され、MANDATORY POLICY を改変し、すべての方針を統合、一元化することが決議された。各支部に順守義務がある。</p> <p>4. 外部連携 宮澤会長より配付資料に基づき、東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe) のもとに計画する、戦略的食品バイオ未来産業拠点の構築について説明があった。</p>
-----------------	--